令和３年度　学校経営計画表

1　学校の現況

学校番号	79	学校名	茨城県立鬼怒商業高等学校			課程	全日制			学校長名		宮田　俊晴			
教頭名	海老澤　恭弘									事務（室）長名		棚井　一博			
教職員数	教諭	38	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	5	実習教諭 実習講師 実習助手	4	事務職員	3	技術職員等	4	計	62

生徒数	小学科	１年		２年		３年		４年		合計		合　計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数
	商業に関する学科	50	105							50	105	4
	商業科			41	81	51	94			92	175	8
	情報ビジネス科			12	28	8	31			20	59	2

2　目指す学校像

○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校
○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校
○安心・安全な学校

3　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	○基礎学力の定着を目的とし、朝のＳＨＲ時に「朝ドリル」を実施している。生徒は目的を理解して、しっかり取り組んでいる。 ○商業科目の学習については，資格取得等を目的として積極的に取り組んでいる。 ○ＩＣＴの活用により、生徒の論理的思考力を育成する必要がある。	○各教科・科目等で育成した資質･能力を教科横断的な視点で活用することにより、卒業後の生活に生かすことができるような深い学びへのアプローチについて研究を進める。 ○生徒自己の資質・能力の向上を図るため、タブレット端末や電子黒板等、ＩＣＴの効果的な活用により、分かる授業づくりを推進する。 ○コロナ禍においても遅滞なく学習が進められるような体制づくりを進める。
進路指導	○高校卒業後に就職することを希望して入学する生徒が多く、進学者と就職者の比率はほぼ半々である。令和２年度については、就職希望者の内定率は100%、進学希望者を含めても、ほぼ100%の生徒が自分の進路希望を実現している。 ○３年生は模擬面接指導を受ける上で「面接ノート」を効果的に活用できた。	○オンラインによる見学会，説明会及び試験に対応できる環境整備並びに職員のスキルアップを図る。 ○模擬面接指導について、生徒の進路希望実現に一層資するものなるよう、実施方法、内容の精選及び改良を進める。 ○１・２学年においては、「進路の手引き」をより効果的に活用できるように工夫する。
生徒指導	○服装や頭髪に関する指導や問題行動は減少しており、全体的に生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 ○ＳＮＳを用いた情報発信によるトラブルが増加する傾向にある。	○服装・頭髪指導においては、引き続き全ての職員が生徒に対して分かりやすく、同じルールで指導ができるようにする。 ○スマホ・ケータイ教室及び学年集会等により、ＳＮＳにおける情報発信のしかたについて注意喚起及び啓発活動を行う。
特別活動	○コロナ禍の影響で学校行事が予定どおり実施できない状況ではあったが、制約の多い中で行われた体育的行事や文化的行事に関しては、意欲的に取り組んでいる生徒の姿が多く見られた。 ○令和２年度の部活動加入率は51%である。バドミントン部をはじめとして、多くの部活動が県大会出場を目標として日々熱心に練習に取り組んでいる。	○新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、行事が円滑に実施できるよう、実施方法について工夫する。 ○活動内容が充実するよう工夫し、部活動加入率60%を目指す。 ○学校行事及びホームルーム活動において、キャリアパスポートの活用を一層推進する。

教育活動充実のための業務改善	○平均超過勤務時間は、令和２年度６月が32時間、10月が38時間である。生徒の多様なニーズに対応するために、担当する校務によっては長時間勤務となる教員がいる。	○教育活動の充実を図るため、各業務について、目的達成のために適切な方法をとっているかの見直しを進める。 ○業務の効率化及び均等化を一層推進する。

4　中期的目標

本校の目指す学校像を踏まえ、鬼怒商業高校生としての誇りを持ち、地域のリーダーとなって社会に貢献できる「人財」の育成に努め、活気ある校風の確立を目指す。
そのために、次の６項目を努力目標とする。

1　生徒の個人的資質の向上に努める。
2　商業に関する専門的知識の育成に努める。
3　保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。
4　生徒一人一人の資質･能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。
5　安心・安全な学校づくりに努める。
6　教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。

5　本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1　生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の徹底及びコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等の学校教育活動全体をとおして達成感を味わうことにより、生徒の自己肯定感を向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と、分かる授業の展開による資質･能力の向上
2　商業に関する専門的知識の育成	○教科内連携による指導法の共有及び公開授業等を活用した教員のスキルアップ ○タブレット端末や電子黒板等、ＩＣＴ機器の有効活用による、ビジネスに関する深い学びの実現 ○探究活動をとおした、ビジネスに関する発展的学習
3　保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校ホームページを活用した、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートを用いたキャリア教育の充実により進路希望実現100% ○ボランティア活動や地域におけるビジネス活動の充実
4　生徒一人一人の資質･能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントにより、全職員の共通理解（同じベクトル）のもと、計画的かつ組織的な指導を展開 ○組織マネジメントの推進による、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善
5　安心・安全な学校づくり	○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等による、生徒一人一人に対する丁寧な理解
6　教育活動の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、目的達成のために適切な方法となっているかの見直し ○情報の共有等の一層の推進